



CITY WATCHING

クローズアップ CLOSE UP

巨大掛け軸複製で堪能

臨江閣別館で3月4日、創建当時から大広間を飾る掛け軸「赤城山水図」と「妙義山水図」のレプリカ完成記念講演会を開催。参加者は完成したレプリカを前に、作品解説に熱心に聞き入っていました。会場ではひな人形の展示も。館内を華やかに彩りました。



個性を生かしてPR

2月24日に前橋プラザ元気21で、Mサポふれあい祭りを開催。市民活動表彰式や各市民団体のステージ発表などを行いました。会場にはさまざまな目標やテーマを持った団体が集結。それぞれ個性を生かしたパフォーマンスやブースで来場者を楽しませました。



新体制の市議会始まる

前橋市議会の第1回定例会が2月28日から始まりました。初日には正副議長を決める投票を行い、議長に三森和也議員（写真左上）、副議長に浅井雅彦議員（写真左下）を選出。本会議は傍聴できるほか、インターネットで生中継も。日程は3月27日（火）までです。

花にある、心を癒やす力

今月1日、県立勢多農林高を卒業したばかりの淡路さん。在学中はグリーンライフ科フラワーデザインコースで、花の勉強に励んでいた。「私が小さい頃、祖父が趣味で育てていた花を見たことがきっかけで、花に興味を持つようになりました」庭先を彩る花に、家族だけでなく通りがかりの近所の人にも癒やされていたという。「祖父が近所の人と談笑する姿を見て、花は人と人をつなぐ力があるんだなと幼心に思いました」この経験から、同高に進学して花の知識を深めた。花が好きだという同じ気持ちを持つ

つ友人たちと出会ったが、意見がぶつかり悩んだこともあったという。気分が落ち込んでいた中、特別支援学校で開かれたコサージュ作りの交流会に参加した。「コサージュが完成して参加者が笑顔で喜ぶ姿を見て、私も自然と笑顔になっていった。花にある、心を癒やす力を改めて感じた瞬間でした」この体験を基につづった「笑顔の種まき」が、上廣倫理財団が主催する感動作文コンクールで優秀賞に輝いた。4月から市内で会社員として働き始めるが、これからも地域の植栽活動などを通して、笑顔の種まきを続けていく。



感動作文コンクールで優秀賞
淡路留伊さん・18歳
広瀬町二丁目

萩原朔美 河畔奇譚



vol.6

前橋文学館
☎027-235-8011

萩原朔美文学館長が各界の著名人と対談。さまざまな領域で活躍する館長の素顔に迫ります。今回は、作家・詩人で萩原朔太郎研究会会長の松浦寿輝さんと語る「前橋文学館と朔太郎研究の今後」についてお届けします。



研究会に面白い人が出れば文学館も楽しくなるね、と朔美館長

●文学館長としての取り組み 萩原（以下H）リーディング

シアターやアーツ前橋との共同展などをやってきた。これからは近隣の文学館や美術館とも一緒にやりたいですね。松浦（以下M）萩原さんはキャリアとして演劇に関わり、多面的な活動をしてこられた。そのパーソナリティが文学館に息を吹き込んだ、それは本当に素晴らしいことですね。●文学館と研究会の今後M 会長として1年。前橋の風土によりやくなじんできたところ。やはり根底には朔太郎への尊敬の念がありますね。研究会は作品を多面的に浮き彫りにし、文学研究をする必要があると思います。全国から中堅クラスの力量ある研究者が参加し、新たな切り口を発表する。そして、文学館という展示空間にソフトを提供する存在となればいいな、と思っています。H そうですね。松浦さんが会長になったことで、周りもそう見ていると思います。文学館と連携を強め、さまざまな企画を市民に楽しんでいただければ、朔太郎に興味を持つといいなと思いますね。（了）